

阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンターからお届けする

# くじゅうだより

TAKE FREE!

2021山の日記念 特集

くじゅうを愛した殿様 入山公

2021夏号

表紙写真：久住高原から見上げる大船山

## くじゅうファンクラブ活動情報

皆さまのご支援で、こんな活動をしています。

- 教育・普及啓発
- 自然環境保全・調査
- 登山道等維持管理

「くじゅうファンクラブ」は、「くじゅう地区管理運営協議会」の通称名称です。

### ことしも野焼きがおこなわれました！

3月16日に竹田市久住町の沢水キャンプ場一帯(約39ha)で野焼きが行われました。4月に入ってからは4日に坊ガツル(約53ha)、10日に九重町側の泉水山(約203ha)・タデ原(約69h)等、11日に大將軍(川端文学碑～長者原周辺 約46ha)・やまなみハイウェイ沿い(約10ha)、22日に一目山(35.7ha)で野焼きが行われました。野焼きは春に枯れた草木に火をつけて焼き払う行事で、もともと牛馬のエサ場の確保のために行われてきましたが、現在は牛や馬を飼う農家も減少していて、草原景観や草原を住みかとしている動植物の保護のためにも行われています。国立公園に指定されたくじゅう地域の山麓に広がる広大な草原景観は、地域の方々の大変な努力によって守られています。

くじゅうファンクラブでは皆さまからの賛助会費・寄付金を活用して、野焼き時の背負い式水囊(火を消す水の入ったバッグ)の購入・貸出しや当日のお茶等の提供を通して、野焼き活動の支援をしています！



### チームタデ原 野焼き見学&実験

令和2年度最後の活動は野焼き見学と実験でしたが、今年はなかなか天候に恵まれず、タデ原の野焼きは4月にずれ込んでしまいました。今回は「野焼きの時の温度変化を調べてみよう！」ということで、子どもたち考案の「野焼き棒」を許可を得てタデ原に設置。鉄の棒と針金を使って、チョコレートとマシュマロを地下10cmから地上90cmまで6か所にくりつけ、その溶け具合で温度変化を観察しました。時には3m以上にもなる野焼きの炎の中で、果たしてどうなっているのか？結果は地下にあるマシュマロは溶けずに形が残っており、タデ原湿原で暮らしている小動物たちは野焼きのときに地下に潜って隠れることもあるかもしれないことを確かめることができました。チームタデ原は子どもたちの豊かな想像力をもって、今年も元気に活動していきます！



### 第5回「山の日」記念全国大会おおいた が開催されます！

2021年8月11日(水)～12日(木)、山の日を記念する全国大会が、九州で初めて、くじゅう地区を中心とした大分県で開催されます。記念式典・記念行事は11日、九重文化センターで。俳優の石丸謙二郎さんをナビゲーターに、プロスキーヤーの三浦豪太さんをはじめ多彩なゲストによるトークイベントなどが開かれます。歓迎フェスティバルは11日、長者原園地で。11～12日にかけてはエクスカッションの参加者も募集中です！詳しくはおおいた山の日公式サイトでご確認を！



### くじゅうだより 2021夏号

発行元：くじゅうファンクラブ  
(くじゅう地区管理運営協議会)  
879-4911 大分県玖珠郡九重町大字田野255-33  
長者原ビジターセンター  
TEL & FAX 0973-79-2154  
くじゅうファンクラブホームページ：  
<http://kujufanclub.com/>

★くじゅうの最新の自然情報などはフェイスブックで！  
<https://ja-jp.facebook.com/choujabaruvisitor/>

★活動報告やくじゅうの基本情報などはくじゅうファンクラブホームページで！  
<http://kujufanclub.com/>



### リレー式職員からのひとこと

長者原ビジターセンターがある飯田高原は標高が約1000mあり、夏は涼しく天然クーラーで過ごしやすい。私は「九州の軽井沢」とよく言っている。タデ原湿原は爽やかな風が吹き、キスゲやヒゴタイなど夏の花が沢山咲いている。秋になれば、くじゅう連山は紅葉し色鮮やかな山々に変化する。紅葉の進み具合などは、Facebookや電話などで確かめると最高の景色に出会うことができる。私たちスタッフもくじゅう連山の魅力を多くの方々に伝えられるよう更に頑張りたい。(伊東)

### 登山マナーの向上にむけて～牧ノ戸レクチャー

6月5日(土)7:00～9:30に、牧ノ戸峠登山口にて登山レクチャーを実施しました。この活動は初夏のミヤマキリシマと秋の紅葉シーズンの2期実施しており、登山届の提出や装備・服装の確認、山のマナーの向上を呼び掛けるものです。くじゅう連山の登山届は各登山口にある登山ポストにて提出できるほか、スマートフォンやパソコンを利用して、大分県警察本部のホームページからWEB上で提出することもできます。ぜひご利用ください。



↑大分県警察本部登山届提出サイト

### 植物調査に参加しています

希少な植物が多く生育するくじゅうでは、いろいろな団体による植物調査が行われています。くじゅうファンクラブでは、5～6月に、沢水でのモニタリングサイト1000の調査、坊ガツルでおこなわれたフロラ調査、やまなみハイウェイ沿線の調査に職員が同行して、関係団体とついに、生育する植物種や生育状況などを調べました。自然を守るためには、まず何がそこにあるのかを確認しなければなりません。こういった地道な調査で得られた知識が、自然を守ることにつながるのです。



### 阿蘇くじゅう国立公園・タデ原レクチャー

＜参加費無料/要予約(団体向け)＞  
学校などの団体向けプログラム。国立公園の概要やタデ原湿原についてなどのレクチャーを15分～30分程度で行います。お気軽にご相談ください。

### タデ原の自然観察会

＜参加費無料/事前申込不要(個人の場合)＞  
九重の自然を守る会のボランティアガイドによる人気のイベント。毎週日曜(12～2月は隔週)・祝日10:00～12:00に開催しています。参加希望の方は10時までに、直接ビジターセンターへお越しください。団体でのお申し込みの場合は事前にご相談ください。



(注)新型コロナウイルス感染症拡大状況によっては、行事を中止することがあります。開催状況につきましては、随時お問い合わせください。また当日の検温へのご協力とマスクの着用をお願いいたします。

くじゅうファンクラブでは、上記のような教育普及・啓発活動、自然環境保全・調査活動、登山道等維持管理活動を実施しています。活動に賛同して下さる賛助会員(年会費/個人一口3,000円、団体一口10,000円)や寄付を募集しています。賛助会員の方には、会員証の発行のほか、缶バッジのプレゼント・お便りの送付などの特典を用意しています。詳しくはくじゅうファンクラブホームページ(左下にQRコード記載)をご覧ください。



### 長者原ビジターセンターへは



### 長者原ビジターセンターまで車で、由布院から40分/九重ICから30分



# くじゅうを愛したお殿さま 入山公

山好きの皆さん、自分が死んだあととは大好きな山で眠りたい、なんて思ったことはありませんか？でもさすがにくじゅうの真つただなかにお墓を建てるなんてできませんよね。でもその山好きの純粋な願いを叶えた人が江戸時代にいました。岡藩3代藩主、中川久清です。今号の特集は、「入山」と号した彼と、彼の愛した大船山の紹介です。

江戸時代、くじゅう連山は大きく3つの行政区に分かれていました。飯田高原などくじゅう北西部は幕府領日田代官所、久住山など南西部は細川氏の肥後熊本藩54万石、そして坊ガツルから大船山など東部は中川氏の豊後岡藩7万石に属していました。



江戸時代のくじゅう周辺 (国土地理院電子地形図に加筆)

岡藩の3代藩主中川久清は、1615

年、2代久盛の長男として生まれました。1653年に父の跡を継いで藩主となり、藩政の確立と教育の普及に努めた名君とされています。1666年に52歳で家督を4代久恒に譲り、81年に67歳で亡くなりました。くじゅうのかかりでは、大船山に繰り返し登ったほか、11代勝光院幕府時代の法華院を手厚く庇護しています。七里田温泉に御茶屋を整備して湯治にも訪れたそうです。

久清は隠居時に「入山」と号し、「入山公」と呼ばれたほどの山好きで、くじゅう連山、なかでも大船山を愛し、たびたび山に登りました。といっても今の登山者のように自分の足で歩いたのではなく、屈強な領民が背負う人馬鞍に負われての登山です。足が悪かったことに加え、身長150



中川久清肖像 (碧雲寺蔵)

cmほどと小柄だったことも助けになったことでしょう。

自分で歩いていないとはいっても、この時代、修験道でも所領境の調査でもなく純粋に「山が好きだから」という理由で、標高1700mを超える山頂まで登山に行く人はそういなかったに違いありません。何が入山公を山へと向かわせたので



▲人馬鞍 (竹田市歴史文化館蔵)

でしょうか？山頂からの景色の雄大さ、折々の花の美しさ、あるいは政務の多忙さやしがらみからの解放？いまの私たちが山に向かう理由と、案外変わらないかもしれませぬ。他の藩の領地に行くことが難しかった時代ですから、岡藩の最高点である大船山に何度も登っていますが、現代に生まれていればくじゅう全域を歩き回ったかもしれません。

久清48歳の1662年には、旧暦4月と8月の2度にわたって大船山に出かけました。この2回は、今の暦に直すと6月2日と10月6日です。見ごろを迎えたミヤマキリシマと、大船御池の紅葉を見に行ったのでしょうか。この山行で大船山の南、「鳥居が窪」を墓所に定める決意をしたと伝えられています。

そして1680年に大船山を墓所とする遺言を残し、翌年亡くなると、遺言通り鳥居が窪に葬られました。標高はおよそ1400m。大名のお墓としては日本一標高が高い場所とされます。入山公廟は「岡藩主中川家墓所」として1997年に国の史跡に指定されました。

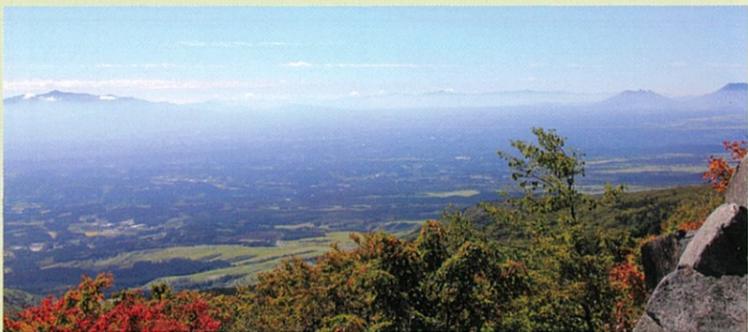
昔も今も、山は人を惹きつける何かを持っているのでしょう。今年は山の日記念式典がくじゅうを中心に開かれます。もし入山公が出席したら、くじゅうに魅せられた彼のこと、きっと山の魅力について大いに語ってくれることでしょう！



▲入山公の墓所。うしろの山は大船山。

## 入山公廟に行ってみよう！

大船山の登山バスは、2020-21年の間運休中(2021.6.20現在)。運行されていればバスの終点から約40分で着くのですが・・・バス以外のルートでは、岳麓寺登山口が最も便利でしょう。七里田温泉に近い登山口には車10数台分の駐車場があり、そこから舗装された牧野道を登ります。「柳が水」分岐を経て登山口からおよそ2時間の登りで到着となります。途中には見晴らしのいい場所も多く、気持ちのいい山歩きが楽しめるでしょう。



▲入山公廟からの秋の眺め。左端は祖母山、右端は阿蘇山、その間に久住高原や岡城下が見渡せる。

入山公廟からの展望は素晴らしいの一言。近くにある岩に登ると久清が治めた岡藩が一望でき、その向こうに祖母傾連峰が連なります。右には噴煙を上げる阿蘇山。振り返ると大船山が大きくうずくまるようにたっています。「ここがいい！」と感動した入山公の気持ちが時代を超えて伝わるような場所です。

入山公廟から大船山頂へはさらに1時間半近くかかります。傾斜も徐々に急になっていきますので、準備を万端にして登ってみましょう。



### 防火帯切りは徹底的に

くじゅうの春は野焼きから。入山公廟は野焼きがおこなわれる場所に近かったからでしょうか、火災予防が厳重におこなわれたようです。毎年170名の人足が刈り出され、廟の周囲約1kmの草刈りに当たりました。そのうち幅50~150m強の範囲は鋤で削り取るという徹底ぶりです。しかしこれは1750年ごろの記録で、1830年ごろには「森の中だった」という記録も残っています。



▲入山公が奉納した鏡。「入山」の文字を図案化している。(竹田市歴史文化館蔵)

### 京から石をはこぶ

入山公の墓所は石積み基壇の上に墓石が設置されています。墓石はかまぼこ型のちょっと変わった形で、これは儒葬式のつくりです。本人のお墓のほか、幼くして亡くなった六男久矩、四女井津姫のお墓もそばに建てられました。わざわざ京都から取り寄せた石も使われています。ただ登るだけでもたいへんな山の中に、京都から石を運んできたというのも驚きですね。完成当時は御霊屋も造営され、多くの参詣者に対応するために番所・番人までがおかれました。

### 山を恋ううた

久清が詠んだ歌二首が、御肖像軸の上部に書かれて残っています。

もとむべき かくれがもなし おのづから 山よりおくの山を心に  
しづかには 住えましとは おもへども 山より山のおくをたづねん  
彼が心に抱いた「山より奥の山」こそが、生涯愛した大船山だったのでしょね。

### 中川久清 略歴

- 1615年 京都にて生まれる
- 1630年 將軍家光に謁見
- 1640年 石川忠総娘と結婚
- 1641年 長男久恒誕生
- 1649年 熊沢蕃山に師事、徳川光圀や岡山藩主池田光政らと交流
- 1653年 久盛死去、三代藩主に
- 1654年 藩主就任後初めての大船登山緒方下井路完成
- 1657年 郷中法度を発布
- 1660年 熊沢蕃山を招聘
- 1662年 年2回の大船登山
- 1664年 岡城西の丸を造営
- 1666年 家督を久恒に譲り隠居
- 1680年 墓所を鳥居が窪に定める
- 1681年 江戸からの帰途に発病、岡城にて67歳で死去